

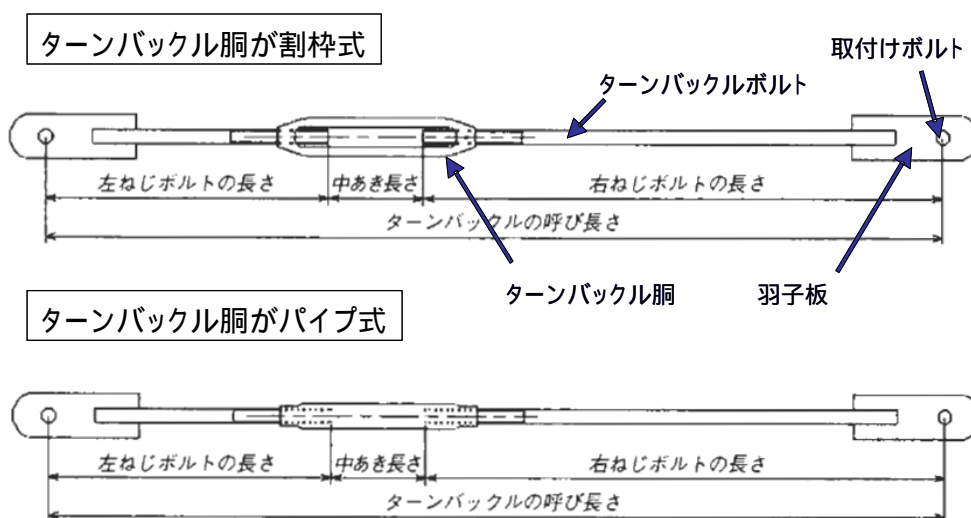
鉄骨工事 Q&A	高力ボルト接合	JIS規格ターンバックル	制定	2011年7月1日
			改訂	2021年10月15日

Q. JIS規格ターンバックルの場合の取付け高力ボルトは、摩擦面の処理は不要か？

A.

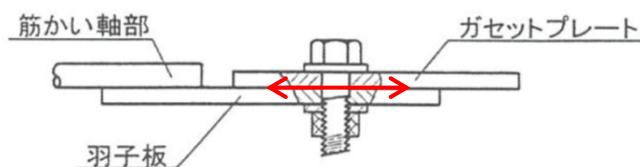
ターンバックルは、ターンバックル胴と、ターンバックルボルトで構成されていますが取付けには、羽子板と建物側のガセットプレートをボルトを介して接合します。このときに、JISの規定では取付けボルトは、通常の六角ボルト(中ボルト)でも高力ボルトのどちらでも使用できるようになっています。

しかし、通常は高力ボルトが設計図書で指定されている場合がほとんどです。高力ボルトは摩擦接合とするため、接触する羽子板とガセットプレートの接合部に摩擦面の処理が必要だと誤解しているケースがありますが、JIS規格のターンバックルでは支圧接合(板とボルトが接触して力を伝達する接合法)を前提に設計されていますので、摩擦面の処理は不要です。



ターンバックル構成の例

なお、施工に際しては高力ボルトのねじ部がせん断面にかからないよう注意する必要があります。



JSS 01-2005「建築用ターンバックル筋かい設計施工指針・同解説」

出典：(一社)日本鋼構造協会_建築用ターンバックル筋かい設計施工指針・同解説